

第3回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 平成27年10月30日(金) 午前10時～正午
- 2 場所 青梅市役所議会棟大会議室
- 3 出席委員
 篠原委員、加藤委員、小澤委員、森田委員、館委員、山本委員、徳武委員
 坂本委員、中島委員、吉澤委員
- 4 議事
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 協議事項
 青梅市人口ビジョンおよび青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の原案について
 - (3) その他

(配布資料)

資料1 青梅市人口ビジョン 原案

資料2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略 原案

発言者	会議のてん末・概要
会長	(開会) (1) 会長あいさつ 前回から2か月が経過し、これまで、2回の懇談会を通して確認してきた様々な検討素材や意見をもとに、事務局から人口ビジョンおよび総合戦略の原案が示されている。今回は特に、総合戦略の基本目標、基本方向、事業、KPIを中心に意見交換をして、まとめの段階に入っていきたいと考えている。
事務局	(2) 協議事項 資料1・資料2を用いて人口ビジョン、総合戦略について説明がなされた。
委員	KPIで青梅線利用者数の目標値が基準値よりも減っている。減らしている理由は何か。
事務局	現在、青梅駅・東青梅駅・河辺駅の利用者は減少傾向にあり、トレンドから推測すると今後も減少する。総合戦略に掲げる様々な施策により、維持していきたいと考えている。
委員	平成26年度に、空家の活用事例が1件と挙げられているが、これはどういう

事務局	<p>内容か。</p> <p>空家を活用したプチ田舎暮らし体験事業を実施している。北部地域にて、地域が主体となり、空家所有者の協力の下、稲作を通して空家を中心に活動するという市民協働の取組があり、今後、そのような事例を市内に広げたいと考えている。</p>
委員	<p>地方から出てきている学生がシェアハウスを求めている。日野市では取組が進められているようなので、青梅市でも可能性があるかと思って聞いた。</p>
会長	<p>日野市では市の政策としてやっているのか。</p>
委員	<p>そのようである。</p>
委員	<p>人口減少を止めるための施策だと思うが、人口を増やすためには雇用の創出が大切だ。企業誘致は大きな効果があると思うが、企業誘致の取組については言及されているか。</p>
事務局	<p>企業誘致については、企業誘致の推進として事業として位置づけている。総合長期計画でも位置づけており、平成24年度に企業誘致条例を制定して取り組んでいる。</p>
委員	<p>教育環境の充実に関するKPIが、学習状況調査の平均正答率で評価するということだが、これで評価できるのは学力向上事業がメインの取組になる。安全・安心な学校づくり推進事業や青少年健全育成事業などの取組を評価することが難しいので、アンケート調査などで補完してはどうか。</p>
事務局	<p>青梅ならではの教育環境の充実では、子育て世代の転入促進を図るために力を入れて取り組むところを、学力向上と位置づけている。KPIもそれに合わせて設定した。教育環境の整備についても指摘を踏まえ、教育委員会とも相談しKPIを検討したい。</p>
委員	<p>雇用について、有効求人倍率がKPIとして設定されているが、これは東京都の数値であり、西多摩エリアの数値ではなく、東京都の数値を用いるのはいかなものか。本日、東京都の有効求人倍率が1.83と発表されているが、この数字も高度経済成長期と同程度の数字なので、現状がすでに高く、それをさらに高めるような目標とするよりは、創業を創出するということであれば、創業率や企業誘致を実数で示してはどうか。</p>

事務局	<p>数値は東京都の数値であり、数値目標は希望値である。仕事を創ることによる雇用動向を示すための指標として設定したが、指摘を踏まえ、適切なKPIを検討したい。</p>
会長	<p>最終的には修正をするということか。</p>
事務局	<p>修正も踏まえて検討したい。</p>
会長	<p>人口ビジョンについては、政府の指示で2060年までの推計を出しているが、そのような先のことを予測するのは容易ではない。総合戦略の計画期間が5年間であれば、人口推計も10年後ぐらいを考えるのが適切なのではないか。</p> <p>人口は、10年後の2025年までに全体で7,000人程度減少すると予測されている。問題は、東部がこの10年では増加する一方で、中央部が減少し、北部も減少数は1,000人だが減少率が大きく、高齢者がとても増える。西部も同様である。このように人口推計が示されている訳だが、総合戦略では地域間格差への対応に言及されていないように思う。交通が便利になれば、便利な地域に移住することは避けられないと思うが、人口が減少する地域が発生しても中心部で支援できるシステムを構築するか。コンパクトシティを目指すといったことは簡単にはいかない。この課題について、事務局はどのように考えているか。</p>
事務局	<p>地区別の推計を捉え、総合戦略の原案を策定するなかで、地区別に事業群を示してはいるが、地区を意識した事業の重点化を考えた。梅の里再生事業は、西部地区の観光振興・産業振興を、梅の里を再生して強化していく。民間主導での自転車の駅づくりモデル事業、空家を活用したプチ田舎暮らし体験事業は、特に北部・西部を中心に農業体験ができる立地条件を満たした空家対策を行う。地域を意識しながら捉えているが、指摘を踏まえてさらに検討したい。</p>
会長	<p>人口ビジョンで、多摩エリアの平成17年から平成22年までの5年間の増減率と、平成22年から現在までの5年間の増減率を地図にして表してもらっている。中央線・京王線沿線が交通アクセスのよさから人口を増やしているようだが、最近の傾向は必ずしもそれだけではなく、日野市や府中市はまだ増えている。これをもっと見ていくと、なぜ小金井市が増えているのに、国立市はそれほど増えないのか。交通の利便性は大きな条件としてあるが、マンションが増えているということなのか。</p>
委員	<p>国立市は大きなマンションを建設させないようにしていることが原因ではない</p>

	<p>か。中央線沿線はマンション建設が進んでいる。国立市は、それほど増えていないが、まちの人氣がないという意味ではないと思う。</p>
会長	<p>日野市はなぜ増えているのか。</p>
委員	<p>マンションに限らず、個別の住宅を必要とする方が買い求める際に、交通アクセスのほか、資金面で準備できる限界、収入の推移なども勘案する。今は、立川市や国立市で住宅建設をしたくても、地価が高く、地型のいい土地を見つけることが難しい。一方、稲城市や日野市は、金融機関の感覚としては資金需要が旺盛で、住宅がかなり建設され、需要がある。</p>
会長	<p>福生市の人口減少が進んでいる理由は何か。</p>
事務局	<p>福生市には基地があり、産業を興すための種地が比較的少ないということが起因しているのではと推測する。産業が少なく、生活保護率が高いといった情報もある。</p>
委員	<p>人口が増えている自治体の良いところは見習わなければいけない。聞いたところでは、稲城市は、主婦が住みたいまちで全国2位とのこと。何か特別な事情が考えられるので、良いところを調査してみてもどうか。</p>
委員	<p>若い人に聞いた話では、結婚や出産を機にすまいを探すにあたっては、賃貸に住む場合が多いため、どの程度の手当が出るのか、周りを検証して決めている人たちもいるようだ。</p>
会長	<p>青梅市の手当の現状はどうか。</p>
企画部長	<p>突出して手厚いということではないが、東京都のなかでは平均的だと認識している。</p>
子育て推進課長	<p>義務教育終了までの医療費があり、都では所得制限を設けているが、青梅市では設けていない。市部で制限撤廃しているところは5～6市程度である。</p>
委員	<p>保育の現場からは、出生率を高くしてほしいと思う。アンケート結果で育児に対する不安が多く示されている。身近なところで解決していきたいと思い、空家を利用した年代を超えた交流ということは考えられているか。</p>
事務局	<p>総合戦略では、政策パッケージとして、おうめ版多世代交流センター事業を</p>

<p>委員</p>	<p>掲げている。このなかでは、自治会館を拠点化しようという試みで、高齢者、子育て世代、若者の居場所として、顔の見える関係を築くための仕組みづくりと考えている。また、空家を活用した地域コミュニティ事業を掲げており、子育て世代の活動拠点や地域交流のスペースとなる、コミュニティづくりの拠点として考えている。これを出発点として委員の意見の趣旨を生かしていきたい。</p> <p>統計に外国人は含まれていないが、福生市は外国人が増えているのではないかと感じる。</p> <p>企業誘致に関して、圏央道が東北道まで接続されることで、交通利便性が向上する。鉄道とあわせて、圏央道のからみでどう考えていくか。自動車について言えば自動運転といった技術開発などにより高齢者でも運転が可能となることから、移動・活動が増える。インターチェンジの価値も増し、雇用にどのように結びつけるかが大事だ。</p> <p>出生率の向上についても、地元企業がないと出生率は上がらないと思う。0歳児などの小さい子どもを、都心に勤めて午後7～8時に迎えに行くのは大変なので、2人目をあきらめることにつながる。職場が近ければ、家庭にも子どもにとってもアドバンテージとなる。雇用の場が家庭の近くにあることで出生率向上につながるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>企業誘致の関係で、工場立地法があり、東京都は緑地の確保や農地保全との関係から条件が厳しいと聞いている。圏央道と東北道の接続は物流のビジネスチャンスではあるが、法的に不便なところもある。自治体への権限移譲もあるようなので、条件を緩和する動きをとると企業の目も向くのではないかと。</p>
<p>会長</p>	<p>圏央道は意識していると思うが、何かあるか。</p>
<p>市長</p>	<p>先日新たに接続する圏央道を試走してきたが、インター周辺の施設整備が進んでいた。インター周辺5kmのところは積極的に土地利用を進め、工業・商業で利用しようと県が積極的に進めている。青梅市としては青梅インター周辺を物流拠点にしたいと考えているが、東京都の農政関係で進んでいないのが実状。農地の手続きの関係の動きはあるが、容易にいかない。青梅インターは、恵まれた環境にあるので、人の流れとして観光などにも生かし、市の発展のために活用する方策を講じる必要もあり、将来的には開発の方向で進めなければならない。</p> <p>人口の増減については、市内企業の動向によりドラスティックに動いている。農地の相続があると宅地となり、分譲され戸建て住宅が建つとすぐに売れると聞いているが、人口には反映されていない。おそらく市内の移動なのだろうと考えられるので、対策を打ち、人口を確保し、さらに呼び込めるような取組が必要</p>

	<p>要だと認識している。</p>
委員	<p>市内で人口移動が生じているのであれば、青梅市内での人口の増減を地図で示すと分かりやすいのではないかと。また、子育て世代の地区別の人口や空家の分布なども地図で示してもらえると、施策が検討しやすくなるのではないかと。</p>
事務局	<p>人口の増減は、地区別の人口があるので、対応が可能だと思うが、その全てについては可否を含めて検討させてもらいたい。</p>
委員	<p>産業の分布も示してもらいたい。北部・西部には農地や山林が多いので第一次産業があり、東部の工業地帯があるところでは第二次産業があるように、エリア別に特化した施策が考えられるのではないかと。</p>
委員	<p>総合戦略を見ながら、民間企業として、どのように関わり、どのようなことができるかを考えてきた。</p> <p>1点目は、創業支援センターのことが施策として示されており、今年度から来年度につなげていく。さらに、ビジネスマッチングの機会の創出に取り組んでおり、これらと連携することで、創業後の資金面や販路拡大につなげるなど、仕事を創っていくことのサポートをすることが重要ではないかと。ビジネスマッチングには専門家・専門機関も参加しているので、相談もできるし、青梅市のものづくり支援事業のバックアップにもつながられるかと思う。</p> <p>2点目は、青梅の観光戦略について、美しい多摩川フォーラムという組織を立ち上げて活動しているなかで、観光振興事業に取り組んでいる。去年は大型バスで約300名、今年は約500名を他地域から青梅市に呼び込んでいる。青梅市とは連携できておらず、これが連携できるとさらに多くの事ができる。フォーラムが企画し、交通・観光事業者と一緒に事業を実施している。また、広く広報してもらっている。イベント効果だけでなく、青梅市を知ってもらう機会となり、青梅市に住もうという思いにつながればと思う。そういった企画を一緒にやってくればと思う。</p> <p>3点目としてまた、新規で始める事業に対するクラウドファンディングと連携して事業を行っており、そういった調達手段により世の中にアピールすることで、事業に協力する人を集めることができる。そのような手法を取り入れてはどうか。</p> <p>最後に、空家対策や新たな住宅施策を講じるうえでは、資金の準備が必要となる。その側面サポート、バックアップするために、金融機関として優遇金利を適用し、青梅市で利子補給等を講じてもらうことを事業化することで、新たに事業者を呼び込める環境をつくることも、一緒にやってくればと考えている。</p> <p>他の事業者も含めた連携など、様々なことをいかにして結び付けて連携して</p>

<p>会長</p>	<p>青梅市の活性化、人口を増やす、その他課題を解決するために使ってもらいたい。</p> <p>総合戦略は、誰が実行するのかという話が出てこないに進んでいかない。委員からそのように提案いただけると、市役所まかせということではなく、民間独自に、または、民間と市役所が連携し一緒になってやっていくことができるのは心強い。</p>
<p>委員</p>	<p>人口ビジョン、総合戦略を見るかぎり、問題は完全に把握されていると感じ、方向性も示されており、よくできていると思う。しかし、ここから見えてくるのは一般的な理想のまちとしての青梅であり、それをどうやって構築するかということであって、発想としては、青梅が衰退していくことを喰い止めるという視点から考えられていると思う。逆に、人口ビジョン・総合戦略とは別の第三の資料として、現状を壊し、どうやって新しい青梅市をつくるかという検討をしてはどうか。採用されなくてもよいので、どんどんアイデアを出して欲しい。よその・わかもの・ばかものといった人たちも青梅市には増えている。そういう人たちから意見を聞く機会をつくってもらいたい。</p> <p>また、まちの発展はイメージ戦略だと聞いたことがある。青梅市のイメージをどのようにして上げていくのか。イメージがよくなれば人口が増える。そのためには楽しそうなことを積極的にやればよい。インフラが整っているからよいということとは違い、楽しいことをやり続けていくことがイメージ向上につながる。そういったことを別途検討してもらいたい。</p> <p>人口減少の問題は青梅市にかぎらず、国全体の問題である。</p> <p>子どもを産み育てることに誇りを持てるような環境としては、都会ではなく青梅市のような場所がいいのではと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>第三の資料の検討は役所でやることは難しいかもしれない。役所は、どこかの地域、何かの産業だけに肩入れすることはできず、バランスを図らないといけない。それは民間の仕事になるのだろう。</p> <p>格式張らずに、青梅市の10年後を議論したい人に集まってもらおうと、おもしろいかもしれない。</p>
<p>事務局</p>	<p>第6次総合長期計画に掲げた、施策連動型のしくみとして「ぷらっとフォーム」の推進のきっかけづくりとしてワールドカフェ形式で、教育や子育てなどについて様々な方に集まってもらい、自由に意見を出しあう場を設定している。</p> <p>総合戦略を策定するが、ここがスタートであり、会長からも誰がやるのか、委員からも連携の仕方について示唆してもらっており、そういった場を活用し発展的に行うなど、趣旨を踏まえて進め方を検討し、実施していきたい。</p>

委員	<p>委員提案の第三の資料に賛成したい。ワールドカフェの取組もよい。学生に青梅市をどうすればよいと尋ねると、ユニークなアイデアが出てくる。</p> <p>いわゆる「まち婚」をメディアに取り上げてもらうことで全国区で名前が伝わるなど、若い世代の意見を集め、第三の報告書に取りまとめておくとよい。ワールドカフェなどにより、まちの中心となる若者も育つと考えられる。消防団なども同様ではないかと思うが、地域のキーパーソンを育て、青梅市の創生を任せるような仕組みや制度、理念を持って進めていくことは必要なことだと思っている。</p>
会長	<p>今後のスケジュールはどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>本日の懇談会で意見をいただいた。11月4日には市議会で説明し意見をいただく。あわせてパブリック・コメントを実施し、市民の意見をいただき、当初の目標である年内の策定に向けて、12月に懇談会を開催し最終的な形を示し、完成させたい。策定後は、本日議論をいただいた手法を用いて推進をしていく。総合戦略は、KPIに基づいて検証し、必要に応じて見直していく方向性があることから、産官学金労言の各分野からご意見をいただきながら推進していきたい。</p>
会長	<p>この計画は東京都にだすのか。</p>
事務局	<p>国に報告する。</p>
委員	<p>先ほどクラウドファンディングの話があったが、第1回の企画に参加した。青梅の木材を使って、青梅駅前にツリーハウスを建てようというプロジェクトに参加した。青梅駅前の空家を借りてカフェを営業している方が、その庭の大きな木にツリーハウスを建てようという話があり、自分が林業を営んでいるため、木材を提供した。さらに自分たちで木を切り出して使えたらより面白いのではないかなり、駅近郊で木材に触れ、加工する体験ができたのはよかった。</p> <p>クラウドファンディングの仕組みは、労力の提供や、お金を出資してもらえたりと様々な効果があった。ツリーハウスの横の空家を活用して、映画を上映できるスペースもつくった。青梅は、映画の看板が多くある映画のまちであるので、そこで上映会も行っている。専門家ではないのでクオリティは低いがないものが見えてくる。ツリーハウスをつくるための木材はあるが、それを加工する製材所がないなど、商工業と連携できる機会が増えれば、質を高めることができるのではないかな。</p>
会長	<p>どれぐらいの人が集まるのか。</p>

委員	<p>実際に集まるのは10人ぐらいだが、イベントを行えば30人ぐらい集まることもある。様々な興味持っている人とのマッチングもあるので、新しい企画が生まれるといった相乗効果があった。</p>
会長	<p>デザイナーのワークショップでは子どもが参加してもらうことにより、保護者もいっしょに来てくれるので、小学生に参加してもらえるとよい。学校との連携は難しいのか。</p>
委員	<p>作業を行うのに、親子で参加している方もあり、学校の友達以外の交流ができ、子どもは自然の中で活発に遊ぶことができ、それを見て保護者が触発されて一緒になって遊ぶ様子も目にした。小・中学校含めて一緒にものづくりができれば地域としても資源の活用になり、様々なことに取り組むことができる。</p>
会長	<p>小学生と一緒に取り組むと、親がついてくる。まちづくりにはそれが必要。</p>
委員	<p>森林の話が出たが、青梅市には農業系の学校や高校や大学、演習林はあるのか。そういう活用のなかで、森林に子どもや学生を呼ぶという活動につながる可能性があるのではと思うが。</p>
教育長	<p>10年前までは農林系の高校があったが、現在は、総合学科の高校に衣替えしている。その高校で、市内に実習林や田畑を保有しており、コースによっては、実習で利用しているようだ。</p>
市長	<p>森の関係では、過去に宅地開発計画のあった90haの森林を青梅市で取得し、森の管理を共同でやろうという計画も立ててはいるのだが、実際にはうまく進んではいない。</p>
委員	<p>森の整備はしているのだが、間伐作業まではできても、製材して利用する段階にまで至らない。ものづくりのために加工できる施設がない。商工業の人たちと木工の面で技術面での連携ができると、活動の幅は広がると思う。</p>
	<p>(3)その他</p> <p>事務局より、今後の人口ビジョン・総合戦略の策定の流れが説明された。次回懇談会の日程を12月下旬で調整したいと説明がなされた。</p>
会長	<p>次回の懇談会は、12月の開催ということで、竹内市長は、本日が最後ということなので、挨拶をお願いしたい。</p>

<p>市長</p>	<p>皆様には、まち・ひと・しごと創生のための懇談会に参加していただき、本日3回目、次にはまとめていただくということでお願いをしてきた。総合戦略はしっかりとまとめて、国全体として地方創生が重要であり、予算もこれにからめて配分するようなことになりそうである。かなり重要な総合戦略になる。引き続き、次期市長が取り組んでいくことになる。策定に尽力していただき感謝する。</p> <p>私は4年前にも、4期目どうしようかということであったが、東日本大震災後半年ころで、どうなるか見えない状況で、総合長期計画も第5次が終わる段階にあつたため、4期目を挑戦することとした。現在の6次の総合長期計画も、人口減少になっていたことから、それに対してどうしていくかということで策定を進め、それを軌道に乗せることを考えていたため、次は出ないこととした。</p> <p>第6次の総合長期計画で検討したことの方向性と同様のところでの議論であり、中身を濃いものとしていただいた。大変良い時期に策定していただいた。最後までまとめをお願いしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>今日出た意見をもとに再度ブラッシュアップしてもらい、12月にとりまとめた い。</p> <p>(閉会)</p>